

高岡の銅器・鉄器

【産地の特色】

高岡銅器は、慶長 16（1611）年に加賀前田家二代目当主、前田利長公が産業振興策のひとつとして現在の高岡市金屋町かなやまち いもじに鋳物師を呼び寄せ、集住させたことに始まる。当初は鍋・釜・農機具などの鉄鋳物が主体であったが、幕末から銅製の美術工芸品製造へと発展し、明治時代にはパリ万国博覧会において展示されるなど、世界的に知られることとなった。

戦時中、軍事使用のために金属が供出され壊滅的な打撃を受けたものの、戦後、先人たちの努力により急速に復興し、さらに新製法の導入によって大量生産体制が確立された。昭和 50 年 2 月に伝統的工芸品として国の第一次産地指定を受けている。

高岡鉄器は、当初の鍋・釜・農機具等を引き継いだ日用品の製造を中心として発展し、戦後、高岡銅器の技術を活かして美術鉄器が作られるようになった。平成 25 年に富山県伝統的工芸品の指定を受けている。

産地の特徴として、製造・加工部門において工程別の分業体制が確立されているほか、事業所規模が小さく、集積度が全国の他産地に比べて高いことなどが挙げられる。

長年、製造・加工業者は自らの工程に専念し、新商品の企画や販売機能を産地問屋が担う分業体制が採られてきたが、近年、産地問屋からの発注が減少したこともあり、独自に商品を企画し、国内外に販路開拓を行う製造・加工業者が増加している。

【動向】

令和 4 年度の販売額は、銅器が約 99 億 3 千万円であり、対令和 2 年度比 3.5%増加している。また、鉄器は約 2 億 3 千万円であり、対令和 2 年度比 11.4%増加している。銅器・鉄器の合計販売額は約 101 億 3 千万円で、対令和 2 年度比 3.7%増加している。

新型コロナウイルス感染症により行動制限が最も厳しかった令和 2 年度に対して、令和 4 年度は、行動制限が緩和され、経済活動も徐々に再開されたことが主な要因と推察される。

品種別の販売額の割合については、高岡銅器の伝統的な主力製品である「神仏具」が最も大きな割合を占めた一方、年々その割合は減少傾向にあり、「テーブルウェア」や「文具・日用品」の割合が今後も増えていくことが予想される。

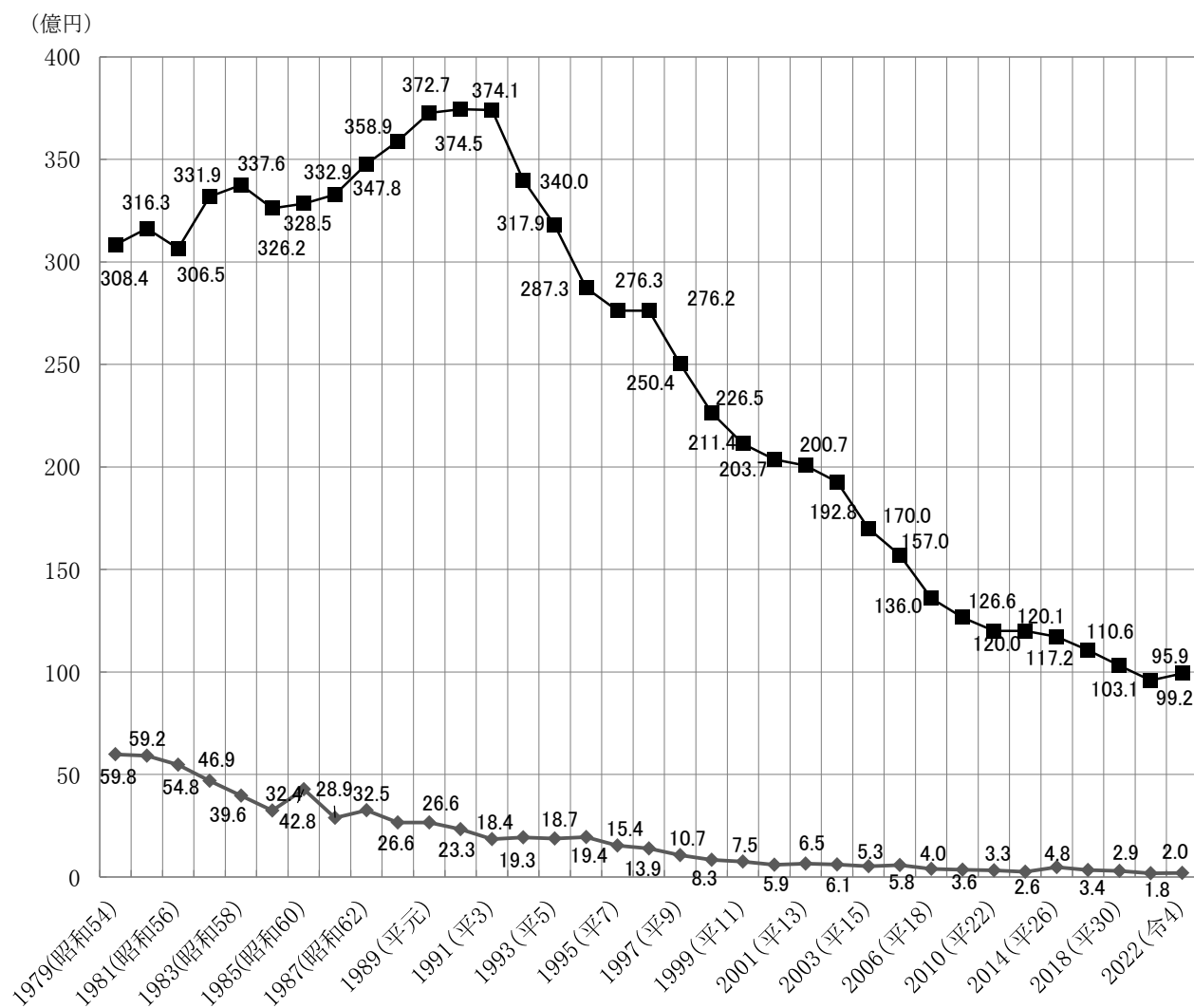
事業者数について、精密な造形が特長である「蠟型」が、前回調査に引続きゼロであった。現在は、伝統技法である蠟型鋳造法に代わり、近代的なロストワックス鋳造法が当産地における産業面の精密鋳造を担っている状況である。

高岡の銅器・鉄器

【販売額の推移】

(単位:千円、%)

年	銅器(非鉄合金等含む)		鉄器	
	販売額	前回比	販売額	前回比
2014(平26)	11,724,517	-	478,193	-
2016(平28)	11,069,684	94.4	341,982	71.5
2018(平30)	10,313,755	93.2	294,563	86.1
2020(令2)	9,586,009	92.9	182,234	61.9
2022(令4)	9,925,147	103.5	202,928	111.4



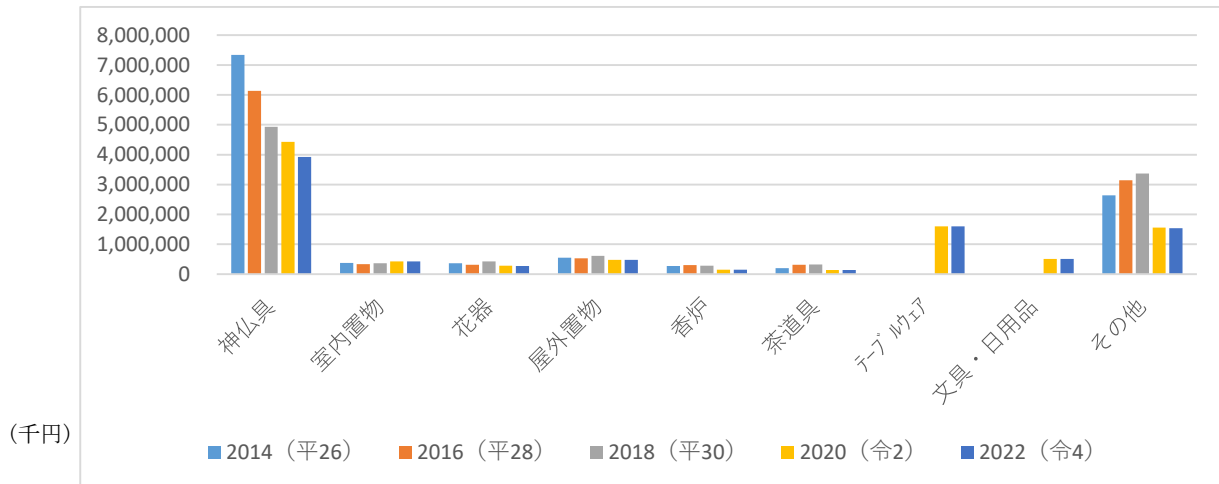
高岡の銅器・鉄器

【銅器品種別販売額】

(単位:千円、%)

品 種	2022(令和4年)		2020(令和2年)		2018(平成30年)		2016(平成28年)		2014(平成26年)	
	販売額	構成比	販売額	構成比	販売額	構成比	販売額	構成比	販売額	構成比
神 仏 具	4,124,523	41.6	4,430,882	46.2	4,936,102	47.9	6,132,706	55.4	7,341,376	62.6
香 炉	207,363	2.1	153,271	1.6	283,846	2.8	308,649	2.8	268,333	2.3
室内置物	373,305	3.8	432,174	4.5	362,968	3.5	334,982	3.0	371,719	3.2
花 器	408,805	4.1	281,615	2.9	425,418	4.1	311,387	2.8	363,139	3.1
屋外置物	415,644	4.2	481,787	5.0	607,593	5.9	530,004	4.8	546,919	4.7
茶 道 具	104,358	1.1	141,717	1.5	327,159	3.2	312,994	2.8	197,982	1.7
テーブルウェア	1,492,424	15.0	1,594,592	16.6	-	-	-	-	-	-
文具・日用品	451,304	4.5	508,140	5.3	-	-	-	-	-	-
そ の 他	2,347,421	23.6	1,561,831	16.4	3,370,668	32.6	3,138,962	28.4	2,635,049	22.4
計	9,925,147	100.0	9,586,009	100.0	10,313,755	100.0	11,069,684	100.0	11,724,517	100.0

※その他…パネル、エクステリア製品、アクセサリ等。(平成30年以前はテーブルウェア、文具・日用品も含む)

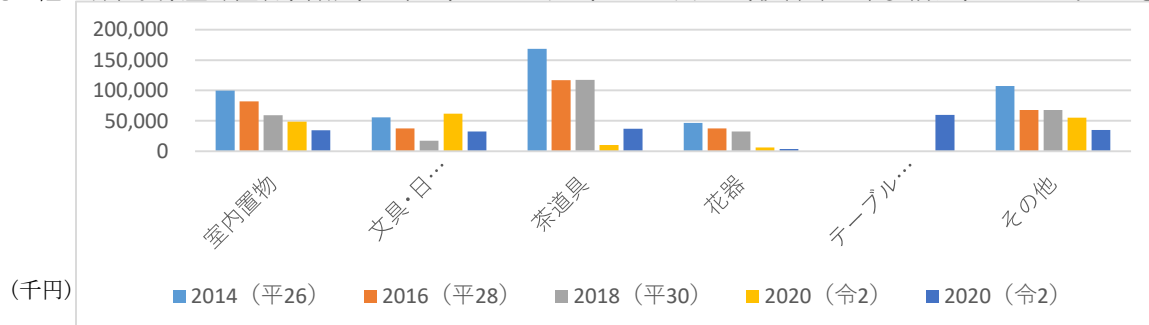


【鉄器品種別販売額】

(単位:千円、%)

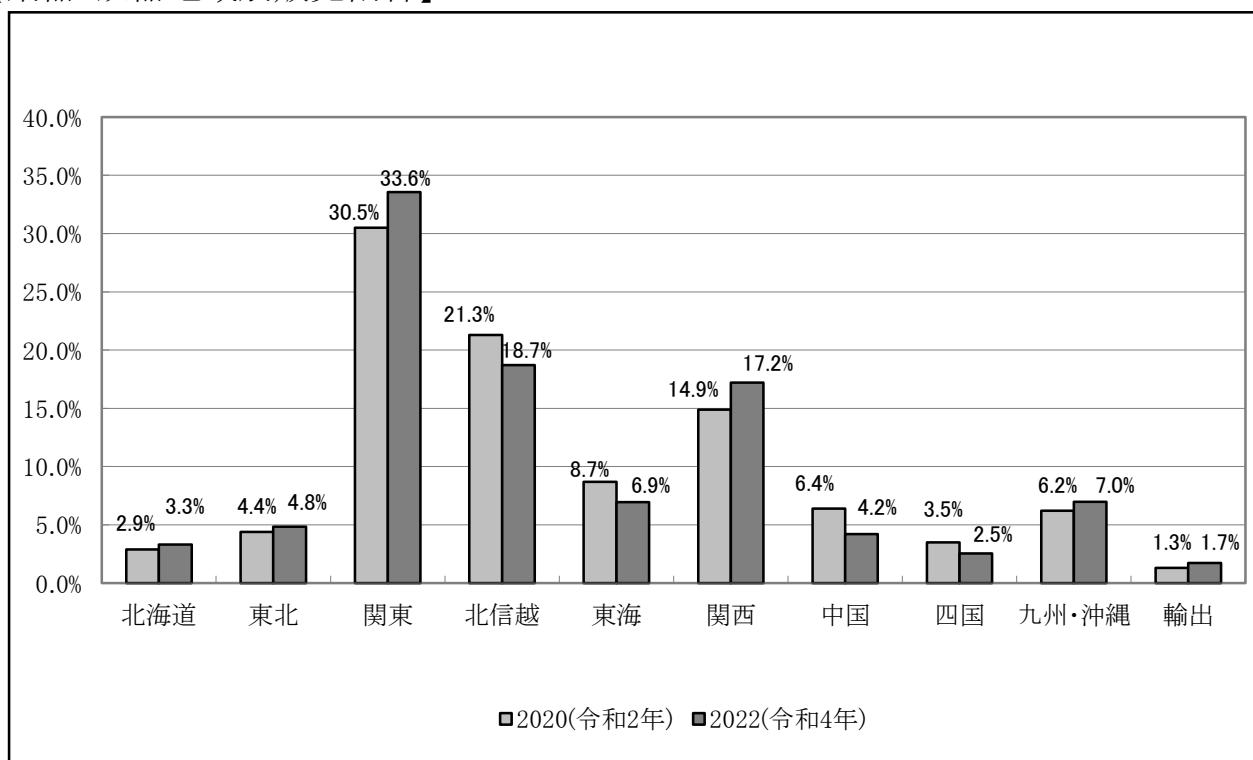
品 種	2022(令和4年)		2020(令和2年)		2018(平成30年)		2016(平成28年)		2014(平成26年)	
	販売額	構成比	販売額	構成比	販売額	構成比	販売額	構成比	販売額	構成比
室内置物	34,659	17.1	48,861	26.8	59,278	20.1	81,872	23.9	99,764	20.9
文具・日用品	32,624	16.1	61,693	33.9	17,352	5.9	37,597	11.0	55,710	11.7
茶 道 具	36,970	18.2	10,384	5.7	117,193	39.8	116,886	34.2	168,709	35.3
花 器	3,500	1.7	6,250	3.4	32,735	11.1	37,748	11.0	46,464	9.7
テーブルウェア	60,000	29.6	-	-	-	-	-	-	-	-
そ の 他	35,176	17.3	55,046	30.2	68,004	23.1	67,879	19.8	107,545	22.5
計	202,928	100.0	182,234	100.0	294,563	100.0	341,982	100.0	478,192	100.0

※その他…神仏具、屋外置物、香炉、パネル、エクステリア、アクセサリ等。(令和2年以前は、テーブルウェアも含む)

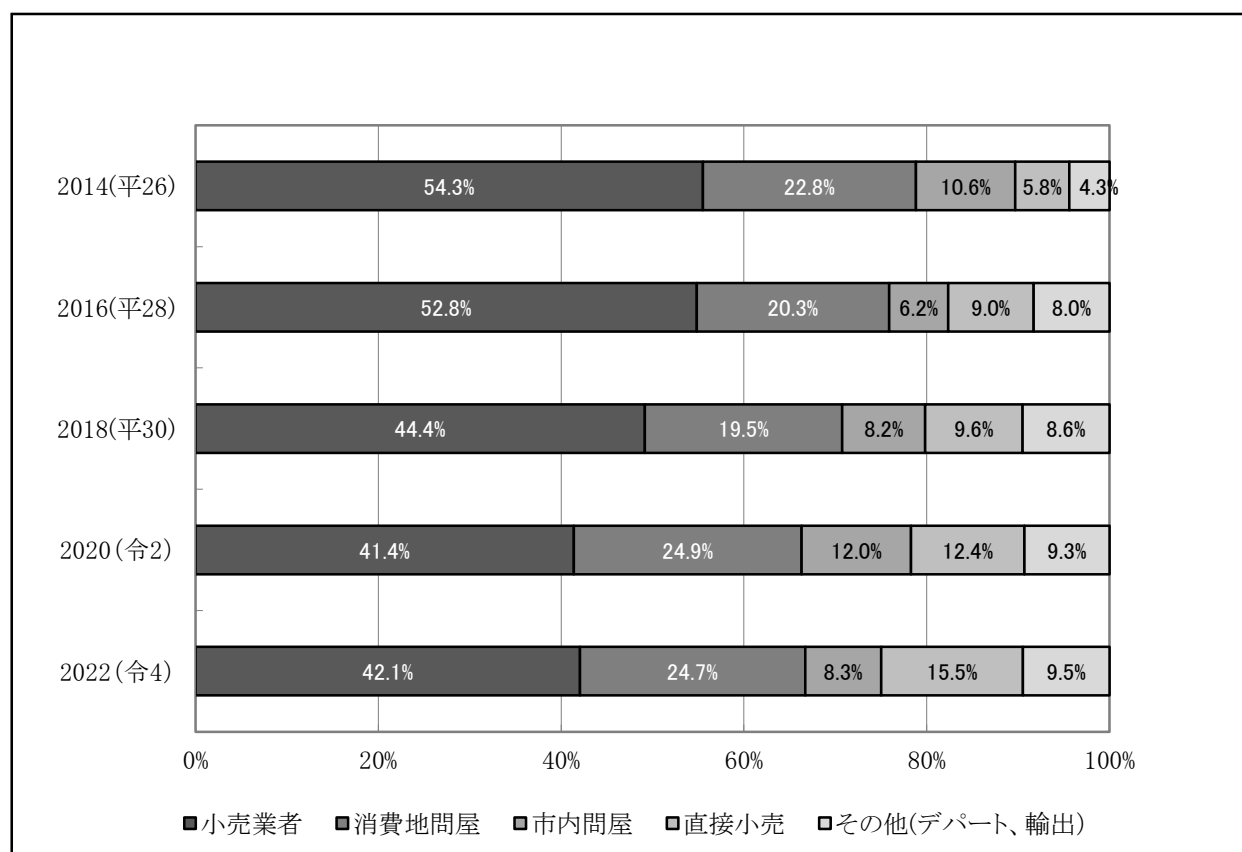


高岡の銅器・鉄器

【銅器・鉄器地域別販売割合】



【銅器・鉄器販売先の業種別割合の推移】



高岡の銅器・鉄器

【鑄造法別事業所数】

○銅器

(単位:千円、%)

製法	2022(令和4年)		2020(令和2年)		2018(平成30年)		2016(平成28年)	
	事業所数	構成比	事業所数	構成比	事業所数	構成比	事業所数	構成比
生 型	18	36.7%	21	41.2%	19	33.3%	27	37.5%
焼 型	3	6.1%	5	9.8%	4	7.0%	5	6.9%
双 型	5	10.2%	2	3.9%	4	7.0%	6	8.3%
ガ ス 型	7	14.3%	5	9.8%	6	10.5%	14	19.4%
蝋 型	0	0.0%	0	0.0%	2	3.5%	1	1.4%
ロストワックス	6	12.2%	8	15.7%	7	12.3%	7	9.7%
金 型	2	4.1%	2	3.9%	3	5.3%	1	1.4%
そ の 他	8	16.3%	8	15.7%	12	21.1%	11	15.3%
計	49	100.0%	51	100.0%	57	100.0%	72	100.0%

※同一事業所で複数の製法を行っている場合は、事業所数を重複して計上している。

○鉄器

(単位:千円、%)

製法	2022(令和4年)		2020(令和2年)		2018(平成30年)		2016(平成28年)	
	事業所数	構成比	事業所数	構成比	事業所数	構成比	事業所数	構成比
生 型	2	28.6%	2	40.0%	2	33.3%	2	28.6%
双 型	2	28.6%	2	40.0%	2	33.3%	2	28.6%
そ の 他	3	42.9%	1	20.0%	2	33.3%	3	42.9%
計	7	100.0%	5	100.0%	6	100.0%	7	100.0%

【加工工程別事業所数】

(単位:千円、%)

工程	2022(令和4年)		2020(令和2年)		2018(平成30年)		2016(平成28年)	
	事業所数	構成比	事業所数	構成比	事業所数	構成比	事業所数	構成比
溶 接	4	5.5%	4	4.9%	4	5.3%	3	3.9%
研 磨	11	15.1%	14	17.1%	13	17.3%	15	19.7%
彫 金	12	16.4%	16	19.5%	16	21.3%	14	18.4%
着 色	33	45.2%	36	43.9%	31	41.3%	31	40.8%
仕 上	13	17.8%	12	14.6%	11	14.7%	13	17.1%
計	73	100.0%	82	100.0%	75	100.0%	76	100.0%

高岡の銅器・鉄器

【事業所数と従事者数】

○問屋

	2022(令4)	2020(令2)	2018(平30)	2016(平28)	2014(平26)	前回比(%)
事業所数(社)	44	47	56	59	61	93.6
従事者数(人)	327	335	517	564	555	97.6

○鋳造

	2022(令4)	2020(令2)	2018(平30)	2016(平28)	2014(平26)	前回比(%)
事業所数(社)	43	46	50	60	67	93.5
従事者数(人)	484	447	445	483	617	108.3

	うち鉄器を扱う事業所	左のうち鉄器のみ
事業所数(社)	5	2
従事者数(人)	18	3

○溶接

	2022(令4)	2020(令2)	2018(平30)	2016(平28)	2014(平26)	前回比(%)
事業所数(社)	4	4	4	3	4	100.0
従事者数(人)	5	4	4	3	4	125.0

○研磨

	2022(令4)	2020(令2)	2018(平30)	2016(平28)	2014(平26)	前回比(%)
事業所数(社)	11	14	13	15	17	78.6
従事者数(人)	25	26	27	35	33	96.2

○彫金

	2022(令4)	2020(令2)	2018(平30)	2016(平28)	2014(平26)	前回比(%)
事業所数(社)	12	16	16	14	18	75.0
従事者数(人)	15	22	26	20	23	68.2

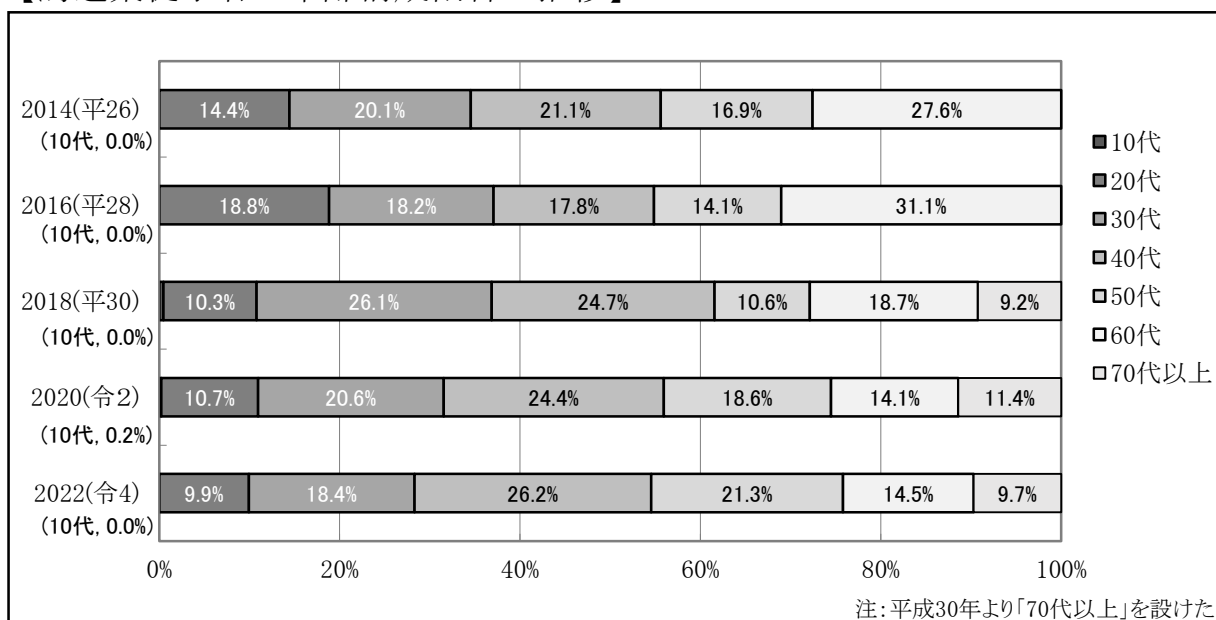
○着色

	2022(令4)	2020(令2)	2018(平30)	2016(平28)	2014(平26)	前回比(%)
事業所数(社)	33	36	31	31	36	91.7
従事者数(人)	108	119	108	105	107	90.8

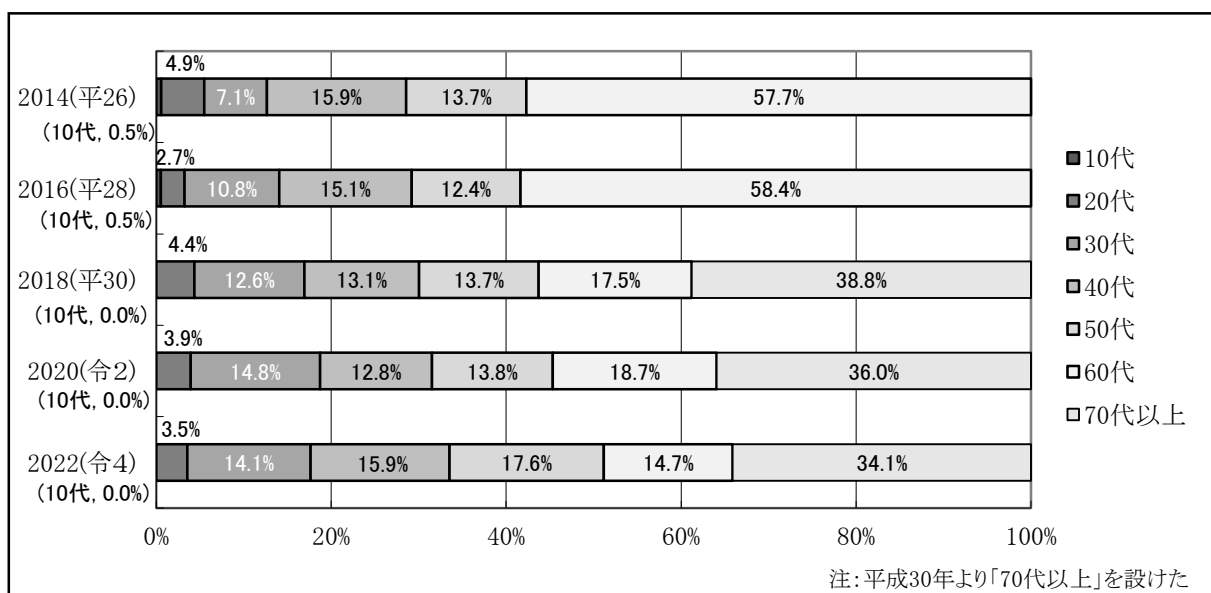
○仕上

	2022(令4)	2020(令2)	2018(平30)	2016(平28)	2014(平26)	前回比(%)
事業所数(社)	13	12	11	13	9	108.3
従事者数(人)	25	32	18	22	15	78.1

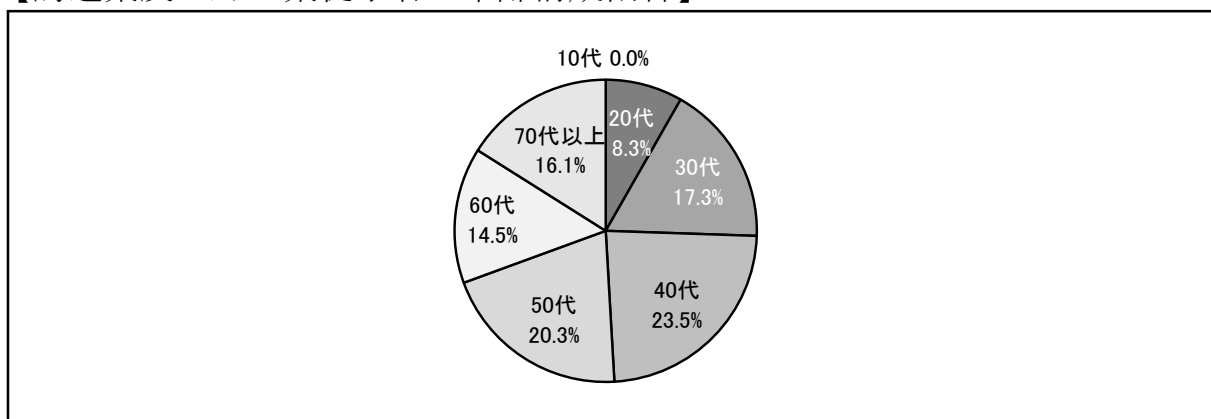
【鑄造業従事者の年齢構成割合の推移】



【加工業従事者の年齢構成割合の推移】

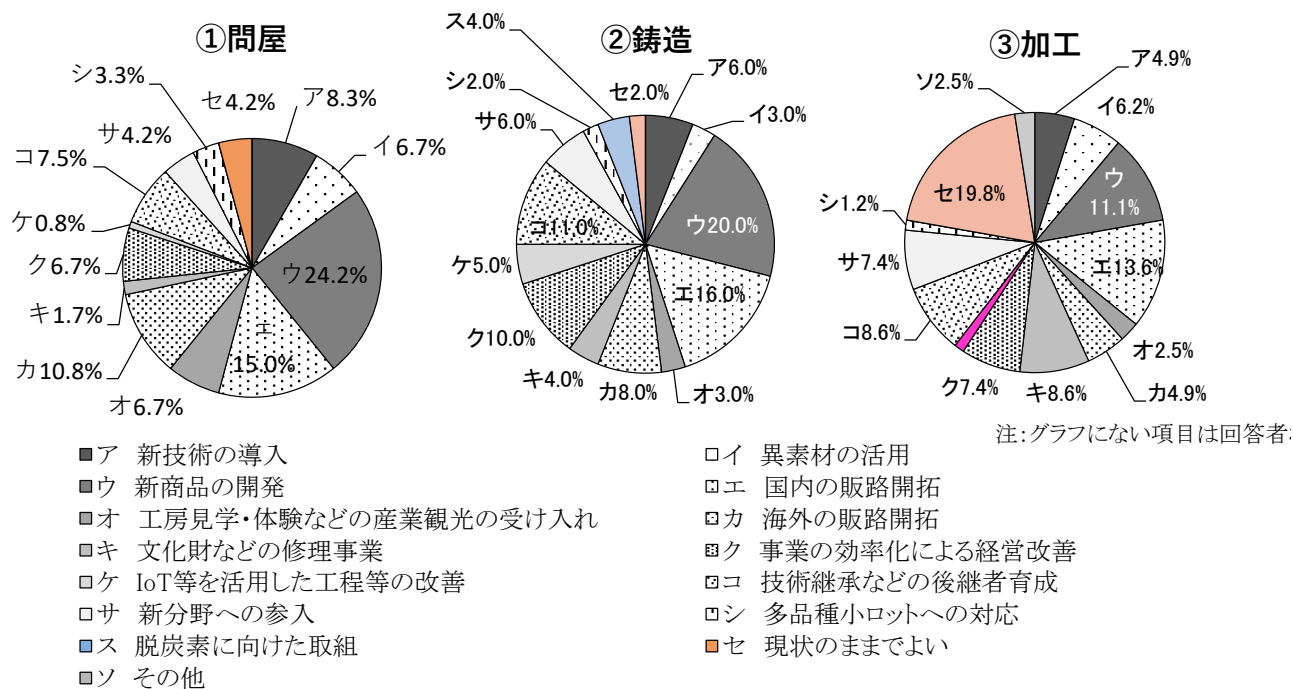


【鑄造業及び加工業従事者の年齢構成割合】



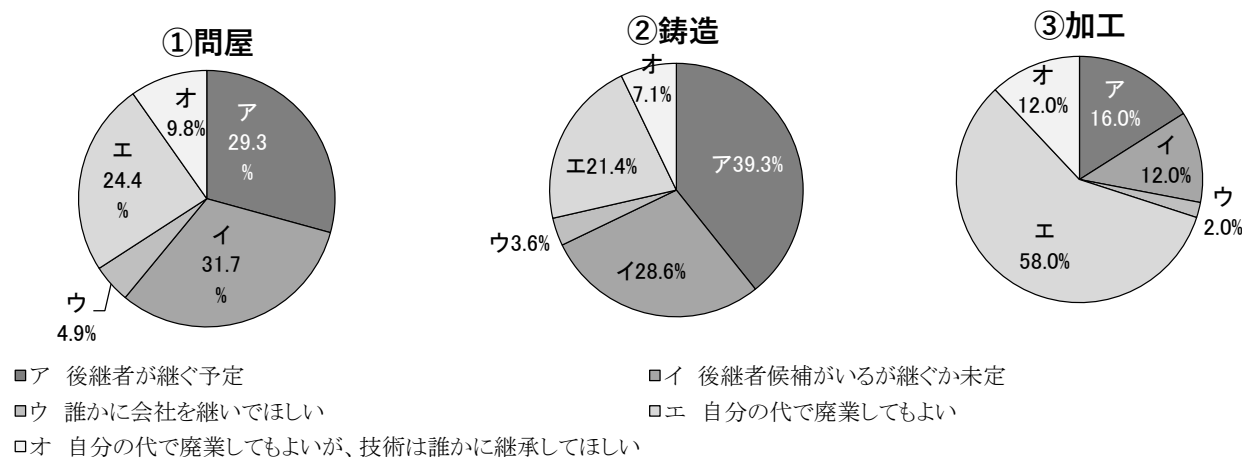
【意識調査について】

1 今後の方向性



問屋、鋳造共に、「新商品の開発(24.2%、20.0%)」、「国内の販路開拓(15.0%、16.0%)」が大きな割合を占めており、現在の生活スタイルに適応した商品の開発や新たな販売先の確保に関心が高まっていると推察される。加工は、「既存のままでよい(19.8%)」との回答が最も高いが、年々その割合は減少し、「国内の販路開拓」が増加するなど傾向に変化がみられる。

2 後継者について



問屋と鋳造は、「後継者が継ぐ予定(29.3%、39.3%)」、「後継者候補がいるが継ぐか未定(31.7%、28.6%)」が過半数を占めるのに対し、加工は「自分の代で廃業してもよい(58.0%)」が過半数を占めた。高岡銅器の製造工程を支える加工事業者の後継者確保と育成が求められる。